

授業科目名	社会科・公民科指導法Ⅰ	必修	開講年次	2	単位数	2
科目区分	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）					
サブタイトル	社会科教育・公民科教育入門	担当者	小松 伸之			
講義概要	<p>【概要】 社会科・公民科とはどのような教科なのか、そのねらいと歴史的変遷について学ぶとともに、将来教師を志望する者として不可欠な学習指導案の作成方法の基礎を身につける。前半では、概論とともに社会科教育史を振り返り、時代の移り変わりの中で社会科がどのような子どもを育成しようとしてきたのかを検討する。後半では、授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶとともに、本学のある木更津市をフィールドに地域調査を行い、調べた成果をもとにして教材化及び学習指導案の作成・発表を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>○社会科・公民科教育史への理解を通じて、社会科・公民科と特質やねらいを理解する。</p> <p>○学習指導案の仕組みを学び、授業づくりについて基礎的な理解ができる。</p> <p>○グループで課題を設定し、資料収集と調査活動を行い、学習指導案を作成することができる。</p>					
履修条件	教育原理を履修済み、もしくは履修中、本年度に履修予定の者。					
教科書・参考書	<p>【教科書】社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社 社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書出版社</p> <p>【参考書】適宜、教場で指示する。</p>					
授業回数	内容					
1	教育現場と教育法規（はじめに）					
2	教育法規① 教育法規とは何か？					
3	教育法規② 日本国憲法における教育の規定					
4	教育法規③ 教育基本法（1）					
5	教育法規④ 教育基本法（2）					
6	教育法規⑤ 学校教育法（1）					
7	教育法規⑥ 学校教育法（2）					
8	教育法規⑦ 地方教育行政法ほか					
9	教育法規⑧ 教育職員免許法ほか					
10	教育法規⑨ その他関連諸法規・条例					
11	事例検討① 子どもの権利（いじめ・体罰）					
12	事例検討② 教育の法的拘束性（教科書検定・学習指導要領）					
13	事例検討③ 開かれた学校づくり（学校評議員・学校運営協議会・学校評価）					
14	事例検討④ 教員に対する評価（教員評価・「指導力不足教員」）					
15	教育法学の現在					
評価方法	<p>期末試験(50%)、課題・レポート(35%)、平常点(15%)</p> <p>※出席は評価の前提条件となる。また、受講者には授業への積極的な参加を求める。</p>					
評価基準	授業内容についてよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	特になし					